

ることを目的とする。しかし、現在インターネット上にはたくさんの SNS が存在しており、その中でも代表的な mixi や GREE など、複数の SNS に登録している学生も多い。それらの学生が、学内 SNS に登録するとなると、管理しなければならないアカウントが増えてしまい、利用を促進する意味で望ましくない。そこで、本研究では学生が複数の SNS に加入している場合でも利便性を損なうことなく SNS を利用できるような工夫を行う。

4. 提案システム

本研究では、松江高専での学内情報システムを統合するポータルサイトとして、会員制 SNS を提案する。とくに、電子ポートフォリオは在学生、教職員のみならず、保護者、地域インターンシップ指導者が参加できるように設計が行われている。このことから、会員制 SNS システムでは、学生、教職員、保護者、地域インターンシップ指導者のみならず、卒業生、企業就職担当者を含めた幅広いユーザを想定している。このことで、学生間、学生教職員間のコミュニケーションを密にすることはもちろん、多種多様なコミュニティが発生することが期待できる。提案システムを図3に示す。

以上のことから、会員制 SNS ポータルサイトに導入する機能をまとめると次のようになる。

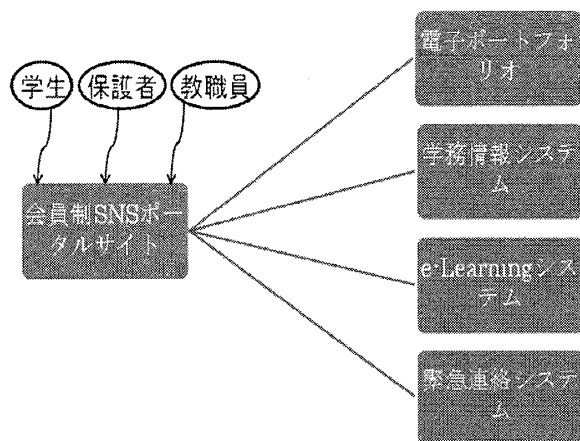


図3 提案システム

- ・ 現在は独立して稼働している e-Learning、学務情報システムなどのポータルサイトとして学内 SNS を稼働させる
- ・ 学生は自分たちで、部活、授業、クラス、趣味などのコミュニティを作ることができ、学生間、学生教職員間のコミュニケーションの場を提供する
- ・ 時間割変更など学校からの情報を SNS 上で確認できる
- ・ 保護者・学校間の連絡を SNS 上で行える
- ・ また卒業した先輩、企業の人事担当者などと交流できる機能を加え、研究・就職に関することなど、コミュニケーションをとることができる
- ・ OpenID、SAML などのユーザ認証システムを利用可能とする
- ・ 携帯電話によるアクセスも可能とする

実現方法は、Web サーバとして最も良く用いられる Apache 2、データベースとして MySQL、インタフェース

プログラムとして PHP5 の組み合わせを用いる。SNS エンジンには、オープンソースで多様なサーバ環境で利用できる、PC とモバイルのプラットフォームにも対応可能な OpenPNE を利用する³⁾。また、システムの核となる OS として、PC-UNIX の一つである FreeBSD8.0R を使用する。SNS システムのユーザ管理については、学生、教職員、からの紹介、あるいは管理者が認めた者とする。提案システムのシステム構成図を図4に示す。

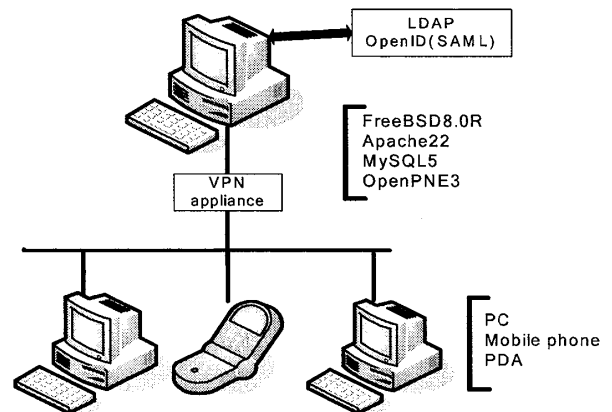


図4 システム構成図

4. 進捗状況

これまでに、教育機関における SNS 導入事例はもとより、オープンソースによる SNS エンジン、SNS アグリゲーション、OpenID、SAML といった技術的な要素、関連研究について調査を実施し、提案システムの仕様を検討した。現在は、SNS システムの基幹部分の構築が終了し、OpenID (SAML) を併用したアカウント制御について検討を行っている段階である。とくに、学内情報システムや電子ポートフォリオは一部で成績データを扱うため、シビアなアカウント制御が求められる。一方で、SNS ポータルサイトは幅広いユーザの利用が必要となり、学外ユーザのアカウント管理や監視システムに工夫が必要である。

また、ユーザの利便性を向上させるためにまだ実験的要素の強い SNS アグリゲーションの実装方法を調査中である。

5. まとめ

以上、松江高専で開発が進んでいる電子ポートフォリオに適した SNS ポータルサイトの提案を行った。今後は、セキュアなユーザのアクセス制御や、アグリゲーション機能の検討を行う予定である。最終的に、利便性を高めたシステムとした上で、松江高専で試験運用を行い、評価を行いたい。

参考文献

- 1) 布施雅彦, 三浦靖一郎, 鈴木三男, 根元信行: 福島高専における ICT を活用した e-Learning 2.0 への取り組み, 日工教研究報告書 2008, pp51-58 (2008) .
- 2) 松江地域版 SNS : <http://matsuesns.jp/>.
- 3) OpenPNE : <http://www.openpne.jp/>.